

第1編 自己紹介編 (出版・論文)**第1章 弁護士坂和章平のホームページ**

1. 01年10月1日、ホームページ開設 <http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/>
2. ブログ開設 (1) 06年3月6日「映画評論家兼弁護士坂和章平の映画日記」<http://sakawa.exblog.jp/>
(2) 06年4月6日「弁護士坂和章平の旅行記」<http://sakawa2.exblog.jp/>

第2章 経歴・仕事・趣味等

資料1~3

第1 経歴

1. 1949 (昭和24) 年、愛媛県松山市生まれ。中学・高校を松山で過ごす。
 - (1) 松山は司馬遼太郎「坂の上の雲」の舞台 (04年は日露戦争100周年)
明治日本の秋山好古・真之兄弟+正岡子規を主人公としたベストセラー
 - (2) 人口30万人の地方都市の良さ
・道後温泉・きれいな街 (城山・観光地)・便利 (買物、映画、遊び)・社会資本充実 (学校など)
 - (3) 進学校 (6年制一貫教育、男子校) の良いところ・悪いところ
2. 1967年 阪大法学部入学、71年 阪大法学部卒業——17歳のころ
 - (1) 70年安保の時代 (佐藤首相訪米阻止)
 - (2) 学生運動 (全学封鎖、東大安田講堂事件) ——ビラ作りとアジ演説
 - (3) 団塊の世代
3. 司法試験の勉強 (独学) 70年1月26日 (21歳の誕生日) ~71年10月 (1年半)
4. 72年に司法修習生 (26期)、74年に大阪弁護士会登録 ⇒ ①公害問題 ②消費者問題 ③都市問題

第2 坂和弁護士の仕事内容

1. 一般の弁護士業務は一般民事中心。事件数は多い。
2. ライフワークは都市問題・都市計画・まちづくりの領域。
3. 執筆活動 (出版、論文、映画評論)
4. 講演 (まちづくり、交通事故、保険、法律問題一般など)
5. 坂和法律事務所独自の仕事システム (事務局の重視) ——事務局提要 (HP参照)
6. 司法改革とのかねあい——法曹人口の拡大、ロースクールとの関連

第3 坂和弁護士の趣味

1. 将棋 (教育TV日曜日朝10:00~12:00)
2. カラオケ (ナツメロ、演歌から最新モノまで)
3. 映画、演劇、ミュージカルの鑑賞+映画評論
 - ・映画評論本の出版——『SHOW-HEYシネマルーム』シリーズ
⇒ 02年6月26日に『シネマルームI』を出版。最新刊は『シネマルーム24』(10年7月出版)
 - ・映画評論の原稿執筆依頼
 - ①連載:産経新聞大阪府下版「That'sナニワのエンタメ」(月1回)03年10月~07年6月
 - ②朝日新聞04年2月13日「ニューオーリンズ・トライアル」
 - ③連載:大阪日日新聞「弁護士坂和章平のLAW DE SHOW」(週1回)07年11月~09年12月
 - ・映画ネタの講演
4. ゴルフ
5. フィットネス通い (自転車、ステップ、マラソン)

6. 旅行（記）

- | | | | |
|----------|--------------------|----------|-------------------------|
| ① 97年6月 | 香港 | ⑩ 06年3月 | 上海・杭州・烏鎮・無錫・鎮江・揚州・蘇州・周庄 |
| ② 00年8月 | 大連 | ⑪ 07年10月 | 北京（北京電影学院にて講義） |
| ③ 01年8月 | 西安・敦煌 | ⑫ 08年8月 | 上海（中国での出版打合せ） |
| ④ 03年11月 | 北京 | ⑬ 09年3月 | 北京・上海（中国での出版打合せ） |
| ⑤ 04年4月 | 杭州・紹興・烏鎮 | ⑭ 09年8月 | 上海（上海ブックフェアへ参加） |
| ⑥ 04年6月 | 桂林・深圳・広州 | ⑮ 09年9月 | 上海（華東理工大学で講演） |
| ⑦ 04年11月 | 雲南省（西双版纳・昆明・麗江・大理） | ⑯ 09年11月 | 厦門（厦門大学城市職業学院で講義） |
| ⑧ 05年3月 | 台湾 | ⑰ 10年3月 | 大連・威海・青島（大連理工大学で講演） |
| ⑨ 05年10月 | 青島・済南・曲阜・泰山 | | |

7. 友人、依頼者との食事会や飲み会

第4 情報収集（アンテナ張り）の重要性

1. 新聞（朝日、日経、読売、毎日、産経）のスクラップ
2. 弁護士以外の業種（コンサル、朝日21スクエア、各種企業）との交流
3. 趣味の付き合いからの情報

第3章 都市問題に関する主な出版

第1 経過

1. 82年8月 大阪モノレール訴訟提起（94年完了）
⇒ 95年4月『ルートは誰が決める？—大阪モノレール訴訟顛末記』出版（共著）
2. 84年5月 大阪駅前ビル商人デモ——大阪駅前問題研究会参加
⇒ 85年8月『苦悩する都市再開発』出版（共著）
3. 84年9月 阿倍野再開発訴訟提起
⇒ 89年2月『阿倍野再開発訴訟の歩み』出版（共著）
4. 87年7月 『岐路に立つ都市再開発』出版（共著）
<その問題意識> (1) 大阪駅前問題研究会での学習から再開発そのものに興味をもった
(2) 具体例（133例）の分析（土地・人・カネ・床の視点から）
(3) 都市再開発が岐路に立っていることを指摘 ⇒ 改善の方向を実践的にプロポーザル
5. 90年3月 『都市づくり・弁護士奮闘記』出版
6. 95年8月 『震災復興まちづくりへの模索』出版（共著）
7. 96年5月 『まちづくり法実務体系』出版（共著）
<その問題意識> (1) キーワード = まちづくり法の複雑性・難解性
(2) まちづくり法に国民が興味をもち、それを広げ定着させる必要性を痛感
(3) 体系化の試み
8. 99年11月 愛媛大学法文学部で「都市法政策」4日間集中講義
⇒ 00年7月『実況中継 まちづくりの法と政策』出版
<その問題意識> (1) まちづくり法の知識ではなく、切り口を示す
(2) 戦後55年の検討（総括）と今の学生（若者）の問題意識
(3) 学生（若者）と民主主義、政治、経済、社会、まちづくりをどう結びつけるか
9. 01年6月 『Q&A 改正都市計画法のポイント』出版（共著）
<その問題意識> 2000（平成12）年5月 都市計画法の大改正（01（平成13）年5月施行）
10. 01年12月 愛媛大学法文学部で「都市法政策」4日間集中講義
⇒ 02年9月『実況中継 まちづくりの法と政策Ⅱ』出版
<その問題意識> (1) 破綻する駅前再開発 (2) 小泉「都市再生」の行方 (3) 戦後57年

11. 03年7月 『わかりやすい都市計画法の手引（加除式）』出版
 <その問題意識> (1) 都計法の体系（枠組み）の理解
 (2) 都計法の時代的流れの理解
 (3) 都計法の基本的概念の理解
 (4) 近時の平成12年、平成14年改正の理解
12. 03年9月 『注解 マンション建替え円滑化法〔付〕改正区分所有法等の解説』出版
 (1) マンション建替え円滑化法の制定（02（平成14）年6月制定、02（平成14）年12月施行）
 (2) マンション建替え組合
 (3) 都市再開発法の権利変換手法を手本
 (4) 密集法（危険・有害なマンション建替え促進、居住安定計画）の手法を手本
13. 04年2月 『改正区分所有法&建替事業法の解説』出版（共著）
 「第2章 建替事業の個人施行」、「第3章 権利変換手続による関係権利の円滑な移行」
14. 04年4月 『ケースメソッド公法』出版（共著）ロースクール用公法テキスト
 「法治主義と信頼保護—韓国人年金支給拒否事件」、「都市計画—再開発反対事件」
15. 03年12月 愛媛大学法文学部で「都市法政策」4日間集中講義
 ⇒ 04年6月『実況中継 まちづくりの法と政策Ⅲ』出版
16. 04年11月 『Q&Aわかりやすい景観法の解説』出版
17. 05年4月 『実務不動産法講義』出版
18. 05年12月 愛媛大学法文学部で「都市法政策」4日間集中講義
 ⇒ 06年9月『実況中継 まちづくりの法と政策 PART 4』出版
19. 07年7月 『建築紛争に強くなる建築基準法の読み解き方—実践する弁護士の視点から』出版
20. 『景観法を軸とした—眺望・景観紛争をめぐる法と政策の新局面』（仮題）執筆中

第2章 その評価

- ・01年5月 日本都市計画学会「石川賞」受賞
 （「弁護士活動を通じた都市計画分野における顕著な実践および著作活動」）
- ・01年5月 日本不動産学会「実務著作賞」受賞（『実況中継 まちづくりの法と政策』）

第4章 都市問題に関する主な論文(省略)

第5章 都市問題に関する主な講義、講演（省略）

第6章 その他の主な出版及び今後の出版予定

1. 02年5月10日『法社会学への誘い』出版（共著）「第9章 陪審制」担当
2. 04年5月26日『いま、法曹界がおもしろい!』（民事法研究会）出版
3. 05年8月15日『がんばったで! 31年ナニワのオッチャン弁護士評論コラム集』（文芸社）
4. 05年10月3日『いまさら人に聞けない「交通事故示談」かしこいやり方』（セルバ出版）
5. 09年8月『取景中国：跟着电影去旅行（Shots of China）』（上海文芸出版社）
6. 10年3月『名作映画から学ぶ裁判員制度』（河出書房新社）
7. 10年11月30日出版予定『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』（仮題）（河出書房新社）

第2編 日本の都市法制の体系とその特徴

第1章 その複雑性と難解性

第1 参考書

- ① 坂和章平（共著）『まちづくり法実務体系』（96年 新日本法規）
- ② 坂和章平『実況中継 まちづくりの法と政策』（00年 日本評論社）
- ③ 坂和章平『実況中継 まちづくりの法と政策 PART II』（02年 日本評論社）
- ④ 坂和章平『実況中継 まちづくりの法と政策 PART III』（04年 日本評論社）
- ⑤ 坂和章平『実況中継 まちづくりの法と政策 PART 4』（06年 文芸社）

第2 母なる法「都市計画法」を中心とした膨大な数の法律（プラス政令、通達、要綱）

第3 その特徴

1. 絶対的土地所有権
 2. 線引き、色塗り、数値による都市計画
-

（但し、08年3月末現在、都市計画区域 999 万 ha、市街化区域 144 万 ha、市街化調整区域 374 万 ha）

- 地域地区（用途地域、特別用途地区）
- 容積率、建ぺい率、高さ制限、斜線制限

3. 国家主導の都市計画
4. メニュー追加方式（メニューの洪水）

第4 西欧の都市法制との対比

1. キーワード
 - 建築不自由の原則（ドイツ） ⇔ 建築自由の原則（日本）
 - 「計画なければ開発なし」「Fプラン（土地利用計画）・Bプラン（地区詳細計画）」（ドイツ）
 - 「成長管理政策」の成功（アメリカ）